

心をこめる大切さ

埼玉県鴻巣市立鴻巣中央小学校 六年 吉野 仁椰

「お誕生日、おめでとう!!」お母さんの誕生日、アップルパイのいいにおいが部屋いっぱい広がる。お母さんのために、私、弟、父の三人で、アップルパイを作った。父は、ケーキ屋さんをしていて、りんごをむくのがすごく上手だった。私も弟も、りんごをむいた。私が一個むいている間に、父は、四個もむき終わっていておどろいた。たくさん練習を重ねるうちに、だんだん上手になっていくのがうれしかった。全てむき終わると、父がりんごを一切れ食べさせてくれた。私はそれを食べてびっくりした。すごくすっぱかったのだ。アップルパイはともかく、ふつうのりんごよりもすっぱくて、おどろいた。父は笑って、こう言った。

「すごくすっぱかっただろう。りんごにはたくさん種類があつて、ケーキには、すっぱいりんごを使うんだよ。ふつうのりんごだと、あますぎて、美味しくなくなっちゃうんだ。」

その言葉を聞いて、私はすごく勉強になった。その目的に合った材料をつかうことで、美味しさが引き立てられるのだ。

また、今回調べて、長い年月や、人の手があつてできているのだと分かった。一年中たくさんの大へんな作業があり、まごころこめて作られたりんごを私たちは食べているんだな。と思った。

「いただきます。」

いつもりんごは食べていたけれど、父に教わったり、自分たちで作ったからか、そのりんごは、特別おいしかった。ケーキには、すっぱいりんごが合うと言った、父の気持ちがあつた気がしたのだ。

これからも、私は、たくさんりんごを食べていこう。その時は、手間や時間、まごころこめて作られたおいしいりんごに感謝して、心から「いただきます。」「ごちそう様でした。」と言つて行きたい。